



「のびゆく下市っ子」を育てよう！

～地域と共にある学校、地域と共に歩む学校を目指し、
学校・地域の活性化を図る活動～

下市町立下市小学校

1 活動の目的

平成22年度・23年度の2か年にわたる学校統合…町内唯一の小学校、校区は町内全域

- 子どものいない地域…住民の学校に対する関心の希薄化が見られる。
- 児童…地域での社会体験が減少し、社会性や規範意識が十分に育まれていない。



- 学校と保護者、地域が子どもたちの課題解決のために参画・協働し、一体感をもって取り組むことにより、地域の教育力の向上を目指す。
- 本活動を通して育まれる所属感や連帯感を基盤にした人間関係を再構築することにより、児童の自尊心を高め、社会性や規範意識の醸成を図る。

H24年度 県教委指定「地域教育力推進モデル校」

H25年度 県・町教委指定「学校・地域パートナーシップ事業」指定校

2 活動の内容

■地域再発見活動

- ・地域の特色を知る社会見学 ・地域と連携した郷土食「柿の葉ずし」づくり ・地域行事への参加（下市夢まつり、初市） 等

■地域団体や地域住民による支援活動

- ・「愛の筒」（地域住民からの浄財）運動 ・登下校の安全見守り活動 ・本の読み聞かせ
- ・学校環境整備と図書室の運営補助（学校支援ボランティア）（H25） ・校地内清掃（老人会）

■地域住民と児童の交流を推進する活動

- ・地域花いっぱい運動（H24） ・老人会の方々を招いての交流グランドゴルフ大会 ・老人会、学校支援ボランティアと児童の合同美化活動（H25） ・高齢者から昔の暮らしや遊びについて学ぶ活動 ・感謝の集い（教育祭） 等

■学校・保護者・地域との参画・協働を推進する熟議の場の設置

- ・「教育懇談会」（H24）「のびゆく下市っ子懇談会」（H25）の開催
- ・下市小学校コミュニティー協議会の開催（H25）

【H24年度の特徴的な活動内容】

- 地域の特色を生かした社会見学…文化研修部と地域住民が熟議して企画。



町民俗資料館や地元の神社での聞き取りや統合となった旧小学校を巡る。
☆社会科学習の充実と郷土を愛し、郷土を誇りに思う心を育む。

○「地域花いっぱい運動」…特別活動指導部と地域の方が熟議し、校区の公共施設や主要な箇所子どもたちの似顔絵とメッセージ入りのプランターを設置。地域の方々と子どもたちが協働して花を育てる。



☆世代を超えて協働することで、地域の方々に見守られ生活していることを児童は体感する。

○「教育懇談会」の開催…校区内の区長、関係団体、PTA役員、町教育委員会、学校が集い、子どもの健全育成に関わる課題や課題解決に向けた協議を行い、新たな取組につなげる。



☆率直な意見交換や熟議により、協働して課題を解決し、地域全体で子どもの育ちを支ようとする意識が高まる。

○校区老人会を招いてのグランドゴルフ交流会…校区老人会による校内美化奉仕作業を通じて築いた世代を越えた交流を深めるため、地域の老人会を招いてグランドゴルフを通じた交流会を実施。老人会の方からルールやプレーの指導を受ける。☆児童は地域の方々に見守られて生活していることを実感し、高齢者は次代の子どもを育てる担い手としての自らの役割を再確認する。



☆児童は地域の方々に見守られて生活していることを実感し、高齢者は次代の子どもを育てる担い手としての自らの役割を再確認する。

○「教育祭」での感謝の集い



「愛の筒」のご浄財を収納する式典「教育祭」で、日頃お世話になっている地域の方々に児童がお礼の言葉を述べる感謝の集い。
☆児童は、自分たちが多くの人々に支え・守られて生活していることを再確認し、感謝の気持ちを持つ。

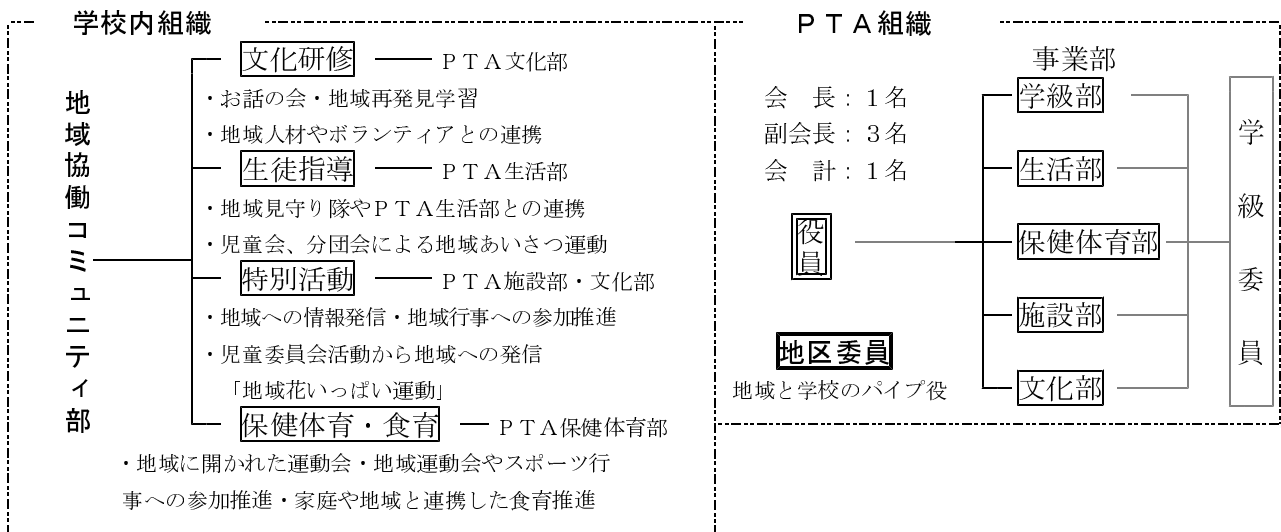
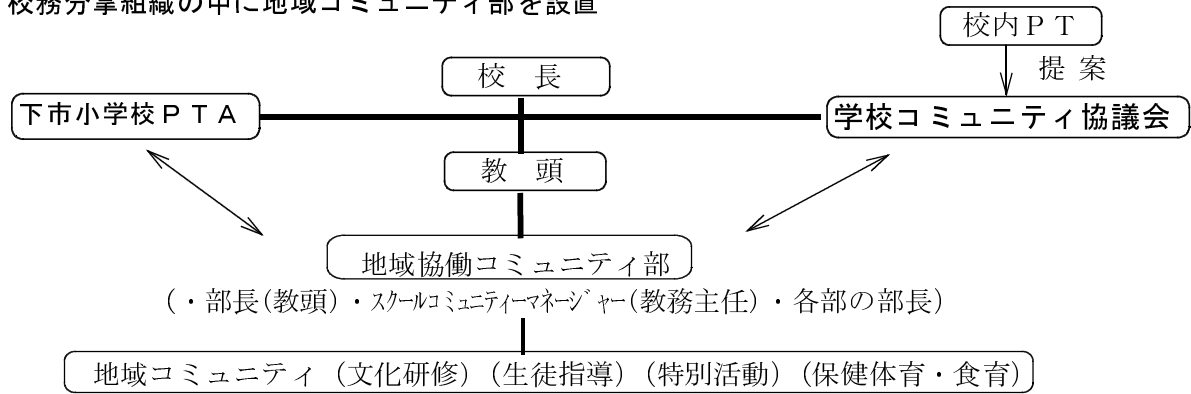


「愛の筒」運動

61年間途切れることなく、学校統合後も継承されている地域の下市小学校（児童）に対する支援活動。地域の方が、子どもたちのために竹筒（現在は紙箱）に一年間お金を少しずつ蓄えてくださったものをPTA地区委員が回収し、「教育祭」でご浄財の収納を行う。地域のご厚意は、学級文庫や「愛の筒文庫」として児童図書への購入等に活用している。

3 実施に当たっての工夫

■ 校務分掌組織の中に地域コミュニティ部を設置



■ さまざまなツールを用いた情報発信

- ・町内ケーブルテレビ（下市テレビ）で学校行事や各種取組を紹介周知
- ・教育懇談会（のびゆく下市っ子懇談会）、地域コミュニティ協議会、更生保護女性会との懇談会等で学校の取組や育てたい子ども像などを直接発信
- ・PTA広報紙（年間2回）、ボランティア募集チラシを「町報しもいち」へ折り込み、町内全戸に配布

■ 学校支援ボランティア募集チラシの作成と全戸配布

地域住民の本活動への理解を深め、地域全体で子どもを育てようとする機運を高めるため、地域コーディネーターと熟議して作成した募集チラシを町広報誌に折り込んで全戸に配布する。

4 成果

- 教職員間に保護者や地域住民の参画・協働を目指す視点が生まれ、学校行事の企画・運営について見直し、参画・協働を得た新たな取組が生まれる契機となった。
- 児童・教職員と地域住民が顔見知りの関係となり、児童から地域の方にあいさつをするなど地域との親近感や連帯感がこれまで以上に増してきている。
- 児童は、保護者はもとより地域住民に日々見守られ、支えられて過ごしていることを改めて実感した。また、地域の人から自分に向けられる温かいまなざしにより自分は大切にされているという思いが育まれ、自尊感情の醸成につながっている。
- 地域に「もっと学校や子どもに関心を持たないといけない。」「時代を担う下市っ子を地域全体で健全に育てよう。」という機運が高まっている。